

令和5年度喜入ブロック小・中連携研修会報告

令和5年度は、喜入小学校において小・中連携研修会を行いました。喜入ブロック内小中学校教職員が参加し、「9年間を見通した確かな学力の育成や生徒指導の充実を図る小・中連携」をテーマに意見を交わしました。

1 日 時 令和5年6月19日(月) 14:00~16:35

2 参加者 教職員65人(瀬々串小・中名小・喜入小・一倉小・前之浜小・生見小・喜入中)

3 内 容

(1) 授業参観(授業提供:喜入小学校2年~6年)

授業参観を通して、発達段階に応じた授業の在り方や系統性について考えることができました。

【参観者の感想から】

- 国語を参観した。子どもたちは、教師の問いや揺さぶりに対してじっくり考え、教科書から根拠となる叙述を探し出し、自分の考えにつなげていた。これまでの授業の積み重ねを感じた。
- 理科の学習では、子どもたちが考えたことを次々に言っていた。それをとめることなく、自由に考えさせている点が素晴らしいと思った。自分の授業でも取り入れていきたい。
- 6年生では、タブレットを使いこなしている子が多かった。中学校で一緒に学習することを考えると、自分の学校でも、ICT活用を含め、様々な力を身に付けさせたいと感じた。



(2) 分科会

学習指導部会、生徒指導部会、特別支援教育部会、養護教諭部会に分かれて実施しました。各部会で、9年間を見通した小・中連携について話し合うことができました。

ア 学習指導部会

これからの時代に求められる子どもたちの資質・能力とそれを育てていくために必要な授業観について、グループ協議を行いました。他校教職員と活発に意見を交わすことで、視野を広げ、考えを深めることができました。

【私たちが育てたい「資質・能力」】

- コミュニケーション能力
 - ・自分の考えを持ち、表現し、伝える。
 - ・他者の意見を聞き、解釈し、生かす。
- 違いや変化を受け入れる力
 - ・自分と異なるものにも向き合える。
 - ・多様な考えを認められる。



【今後、大切にしたい「授業観」】

- 教師が、身に付けさせたい資質・能力を明確に持ち、その学ばせたい思いと児童生徒の学びたい思いを結び付ける「しかけ」のある授業を積み重ねる。

イ 生徒指導部会

小・中学校の教職員間の交流を深められるよう、グループに分かれ意見交換を行いました。その後、中学校の現状をもとに、話し合いを行いました。

【児童生徒の安心感ある学校生活に向けての課題】

- 自己肯定感を高めたい。そのためにも、その子の個性を理解し、指導していきたい。
- 小学校の頃からの人間関係のトラブルが影響している事案も少なくない。
- SNSを通じたトラブルが多い。発見も難しい。

【今後の取組】

- 小・中で引き継がれる情報は、生徒指導において重要である。特に小学校時代の記録を丁寧に残し、中学校への接続を充実させていく。
- SNSについては、使い始めの初期段階での指導だけでなく、定期的な意識付けも必要である。小学校での情報モラル教育や情報セキュリティ教育、保護者への啓発活動を充実させる。



ウ 特別支援教育部会

異学年で学ぶ際の授業の工夫や学力差に対応した授業の工夫、中学校へ進学するまでに育てたい力などについて、話し合いを行いました。

【共有した情報】

- ゴールを教師と児童生徒で確認して学習に取り組み、ホワイトボード等に、この時間に取り組みことやゴールを提示するとよい。
- 各自が、自分の苦手なことを把握し、苦手な場面に出会ったとき、どうすればよいか、クールダウンの方法や対処の仕方などを理解できていると、中学校でもスムーズに活動に取り組みしていける。

【今後の取組】

- 自己理解への指導を充実させる（自分トリセツを少しずつ整理できるとよい）。
- 個別の支援・指導計画の様式が各小学校で異なる。中学校が中心となり、統一化に向けて取り組みを進める。



エ 養護教諭部会

食物アレルギーについて共通理解を図りました（対応の方法や課題、医療機関の受診等）。日頃、情報交換することができないため、時間をかけて食物アレルギーについて話し合うことができ、充実した連携となりました。

4 まとめ

- 小・中の円滑な接続のためにも、児童生徒にとっての段差を適切な大きさにすることが必要だと考えます。そのためにも、授業づくりや生徒指導に関する情報の共有を大切にしていきます。
- 年1回の研修会ですが、これを機会に、各校、各担当者が連携を図り、情報を共有することができる体制づくりを進めていくことが必要だと考えます。